



murakushi

広報

平成23年度 第2号

(通巻第114号)

平成23年11月20日

村櫛町自治会

平成23年4月1日現在 人口 3,125人 男1,528人 女1,597人 世帯数1,065戸



台風15号の爪痕

台風15号は、9月21日午後2時頃、20年（1991年以来）ぶりに浜松市（村櫛）に上陸し、強い風雨で各所に爪あとを残した。近年に東海地方を襲った台風の中では、最大規模の勢力（中心気圧950ヘクトパスカル）で、静岡県内においては、2年ぶりの直撃となった。また、市内の交差点の信号は、停電により機能を失い、一般家庭への復旧にも3時間以上を費やした。町内では、倒木により玄関前や市道が塞がれたりしたところが5ヶ所以上あり、即時対応したが、臨海地区の村櫛海水浴場の湖岸堤は、大きな被害を受け、復旧のめどはたっていない。

記憶に新しい近年の台風は、狩野川台風（1958. 9）伊勢湾台風（1959. 9）

台風8号七夕豪雨（1974. 7）

会務報告

- 7月26日 村檜小学校遠泳大会
- 31日 第3回組長会
- 8月7日 墓地清掃
- 14日 第11回納涼祭
- 19日 第6回定例評議員
- 9月4日 村檜町総合防災訓練(津波避難訓練)
- 10日 「庄内住民は自分で守らまい」
庄内自治連主催講演会
- 13日 庄内地区村檜校区敬老祝寿会
- 16日 第7回定例評議会
- 25日 村檜小学校運動会
- 10月1日 秋祭り(宵祭り)2日秋祭り(本祭り)
- 9日 村檜幼稚園運動会
- 16日 第31回町民運動会
- 21日 第8回定例評議員会
- 22日 青少年健全育成会クリーン作戦(中止)
- 30日 庄内ウオーキング
- 11月10日 庄内地区暴力飲酒運転追放決起大会
- 20日 村檜会館まつり

震災より七ヶ月が過ぎて

新年度になってから6月・9月と二度の避難訓練を行ってきました。その後、徐々に国の対応や他県の津波避難についての対処方針が出され、そのなかでも特に三重県においては、「避難時の所用時間を5分で行うよう」と、非常に厳しい条件となっています。

国の方針としては、来年夏までに「避難についての基本方針」が決まり、それを受け静岡県としての避難規準が出されるという。そのうえで、浜松市としてのありかた、対処方針が出てくると思われます。

いずれにしても、従来の考え方では、とても成り立たなくなります。

例えば、津波の高さの想定は2～3mであったのが、10mを超える高さで襲ってくるという事を前提として、計画の練り直しが必要になって来ました。

その点では、前2回行った。「津波訓練」は正しかったのではないだろうか。

しかし、東日本地震の時の津波到達時間が早くても30分あったといわれていますが、今後予想される太平洋沖での三連動地震の場合は、もっと早い時間に津波が到着されるといわれております。

これからの避難訓練に採り入れていかななくてはならない点としては、老人・幼児の避難について、特に歩行困難者等に対して、また一人住まいの高齢者に対して、いかに素早く避難させることができるか、先の東北地方の教訓を基に、村檜に合った、より良い避難方法を編み出し、津波による死亡事故ゼロを目標に一步一步前進していきたいと思っております。

震災に学ぶ

3月11日の東日本大震災は、私たちに数多くの教訓を残してくれました。死者・行方不明者併せて2万人弱の人々。そのほとんどが津波による犠牲者でした。

想定をはるかに超える津波の高さと速さは、人・家・車・街並みとあらゆる物を飲み込んでしまう自然の恐ろしさは想像を絶するものです。

豪雨や台風は天気予報で降雨量や風速・日時など事前に予測が可能で、前もって準備をすることは出来ますが、地震だけはいつ・どの位の規模で発生するのかは、全く予知できないだけに、事前の備え・訓練が大変重要な意味を持っていると思います。

いざ地震が発生・津波警報が発令された時の避難場所・経路・事前準備としての家具や電化製品の転倒防止対策・防災用具など、あらゆる事を出来る限りやっておくことが、被害を最小限にとどめることにつながると思います。各家庭で防災意識を高め十分な準備をしておきましょう。(A)

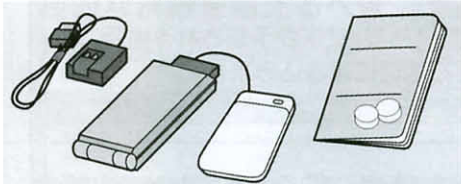


○家庭では、

家族での話し合うことから始め、地震の話題、避難方法、持ち物の分担、連絡場所を決め、自らの判断で率先して行動することを確かめ合う。

東日本大震災ではこんなものが役立ちました!

携帯電話の充電器 お薬手帳のコピー



○隣・近所では、

常日ごろより「あいさつ」の声かけから始め、できることから手助けをし、近所付き合いを良く、世間話しながら情報交換をする。

夜、寝ているときも

身近な所に、懐中電灯、ラジオ、携帯電話、靴を置いておきましょう。(素足では、割れたガラスでケガをします。)



○自治会の班や組では、

避難場所・ルート の 確立や情報の収集と集約。班から組、組から自治会への関係を密にし、素早く対応できる体制づくりにつとめる。それには、日頃の現実に見合った避難訓練の実施・想定内の拡大、役員の実働力の確認が不可欠である。



○庄内地区および西地区では、

近隣の町との相互・援助協力、連携作業の可能性の模索、応援要請の中継基地の提供など、できる限りの可能性を検討する。いずれにしても、「まず、自分のことは自分です」「何をおいても、すぐに避難」が教訓として感じられました。



自然災害に思う

(その1)近年にない「大型台風15号」でしたが、皆様のお宅は大丈夫だったでしょうか。屋根瓦が飛び、雨どいが外れたり、という話を聞きました。また、高潮が来て、近くの船着場から船が流されたり、堤防に乗り上げたりし、未だに爪痕が残っています。村櫛海水浴場の岸壁も全体に崩れ、大変驚きました。

50年前の13号台風、伊勢湾台風を思い出し、改めて自然の恐ろしさを再認識するとともに、日頃の備えが必要と思いました。(Ko)

(その2)自然災害、最も新しい災害が、今年3月11日、東北地方太平洋沖を震源とした大地震・大津波です。まるで、テレビ・ドラマの中の出来事で、別世界のような思いが感じられました。

住んでいる村櫛も東海地震・東南海地震による津波が心配されています。津波に対する避難場所としてふさわしい場所はどこか、災害に備えて、平常時から対策を心掛けたいと思いました。(Ku)

(その3)東北地方を襲った、未曾有の大災害。20年ぶりに静岡を襲った台風。幸いにも、どちらも影響が少なかったものの、改めて災害に対する甘さに、考えさせられました。台風により海水浴場の大きなダメージには、驚きました。町民の津波避難訓練は数やる中で、場所や方法をしることになり、有効です。

「いつ起こるかわからない災害」常日頃から準備万端にしておきたいと思います。(To)

普段の心得

地震が起きたら、ガス栓を止め、電気のブレーカーを落とし、防火に務める。テーブルや机の下に身を隠し、足もとのガラス等の破片に気を配り、屋外へ脱出。避難場所へは、狭い路地や倒壊の恐れのあるブロック塀を避け、安全なルート選択し、最小限の持ち物で歩いて避難する。(S)

非常持ち出し品

寝袋・手袋・下着類・タオル・せっけん・毛布・救急薬品・常備薬・ちり紙(ティシュペーパー)・防災頭巾(ヘルメット)・ロープ・現金・トランジスターラジオ・缶詰・ミルク・家族3日分食料・飲料水・預金通帳・印鑑・懐中電灯(予備の電池)マッチ・ロウソク・ナイフ・缶切り





アンテナ



町の声 あんなこと こんなこと



キロスズメバチの駆除



キロスズメバチの巣



納涼祭



町民運動会



華卯太鼓のお披露目



村楡小学校遠泳大会



旧ごみ捨場「打越」の整備



敬老祝寿会



墓地登り坂の手すり設置

編集委員

山崎瞭司	鈴木明德	安間清弘
熊谷益美	小松美保	徳田八重子